

# 白樺と虹と太陽と

令和5年度 校長通信

10月12日発行

第8号

文責 中野善文

## 折り返し地点を迎えて（下半期の充実へ）

9月29日の夜、中秋の名月がまぶしいくらいに光り輝いていました。思わず見とれているうちに、竹取物語や枕草子のことなどが思い出され、昔の人たちは月を見ながらさまざまなことを思い、想像を膨らませていたのだらうと思いました。上半期の最後に、素晴らしいものを見られた気がします。



上半期から現在までの活動を振り返ると、「地域学」のテーマとなっている「故郷への思い」が一本の筋となって繋がっているように感じられます。

修学旅行・宿泊研修・山形校外学習のそれぞれにおいて、故郷山形を見つめ直し、白樺植樹やガタゴンまつり、闘牛大会等の地域イベントに多くの生徒が主体的に参加しました。

また、「地域学」を通して学んだことやその思いを、生徒を代表して生徒会長の下舘春稀さんが「わたしの主張」久慈地区大会で発表し岩手県大会に進みました。その内容は、やまがたビジョン委員会においても称賛され、「おらほーるだより」でも紹介される予定です。

### 自治的活動を次期生徒会に繋げよう！更に高いレベルの学校を目指して!!

10月からいよいよ下半期がスタートしました。

次期生徒会役員を決める役員選挙（立合演説会）において、校長から「学校のレベル」についての話をしました。

「2学期がスタートし、各種大会・コンクールで目覚ましい活躍を示している山形中学校ですが、今の山形中学校のレベルはどのレベルにあるのでしょうか。」



行事を成功させるのは普通のレベル、自分たちの生活を自治的に高められるのがその上のレベル、授業の学び方や学力を高められるのが更に上のレベル。さあ、どのレベルにあるのでしょうか。」

「生徒会役員選挙も学校のレベルを示すものだ」と私（中野）は考えています。学校のリーダーとしてふさわしい役員を選ぶのは普通レベル。立候補者の考えを聞きながら、自分はこうしたらよいかを全員が真剣に考えるのがその上のレベル、選挙後に生徒会全体がリーダーに協力をして学校を高める活動を行えるのが更に高いレベル。」

5名の素晴らしい役員が選ばれました。最上級のレベルの活動を期待しています。

### 10月21日 山形中学校文化祭 40周年記念ステージをお楽しみください！

現在、10月21日（土）に開催される文化祭に向けて「演劇」「合唱」の取組が本格化してきました。これまで先輩方が築いてきた伝統を受け継いで、成功させようという気持ちが自然と伝わってきます。特に、演劇活動では、3年生が脚本をもとに演技をはじめ、効果的な音響や照明の在り方、舞台背景等のセットづくり、演技を引き立たせるメイクや衣装、そして小道具などを総合的な学習の時間に考え、係ごとに主体的に活動を進めています。

2年間の「地域学」の集大成となる演劇「未来ビジョン・ヤマガタ」と下舘春稀さんの「どこへ行っても」、そして、市英語弁論大会で最優秀賞を獲得した英語弁論（最優秀賞：3年・田中彩遥、2年・清水川結央、優秀賞：1年・佐々木蘭）、山形中の伝統文化である合唱と見どころ満載の文化祭です。どうぞ奮ってご観覧ください。

相次ぐ受賞に、他校の校長から「どうしたら山中のような生徒を育てられるの？」と称賛されました。

# 演劇「未来ビジョン・ヤマガタ」山形の未来を一緒に考えませんか

## あらすじ

とき 2023年(10月)

ところ 山形中学校 平庭闘牛場 酪農家

総合的な学習の時間「地域学」で山形ビジョンの説明を聞いた3年生。

主人公 翠は、故郷の未来を案じ、自分たちでできることはないかをクラスのみんなに呼び掛ける。地域に「今あるもの」をどのように活かすか考え、「闘牛」をテーマとすることにした。実際の闘牛農家を訪問する中で、故郷や地域を思う声を聞き、自分たちのできることで盛り上げたいと決意する。

この演劇をご覧いただいた後には、さわやかな感動とほっこりとした山形(愛)が、皆様の心を温めてくれると思います。

## <キャスト>

### 山形中学校



#### 主人公

翠

#### クラスメイト

誠 葵 蛍 拓海 俊介 凧

#### 担任

#### 酪農家(山王家)

山王友三(祖父) 雄三(父) 薫(母) 伊予(孫)



白樺王(横綱)

プロモーター アイドル

#### 酪農家(金木家)

金木金次郎 銀次郎(弟)

グレードガタゴン(新横綱)

勢子 闘牛

VS



実況・解説者

観光客

## 「明るい笑顔の輝く学校」を私たちの手で

本校では、全校生徒が明るく元気に生活するために生徒会が主体となって「NAR運動」や「Good Tree」などの取組を行っています。そのような中、ある問題が起きました。

先日、音楽準備室で生徒を誹謗中傷する落書きが見つかりました。落書きをした人は、もしかすると遊び半分の気持だったのかもしれませんが、その内容を直接目にした人や聞いた人は不安な気持ちや不快な気持ちになったことでしょう。

その日のうちに全校集会を開いて、事実の概要を伝えるとともに、アンケートを行いました。

翌朝、情報はなかったこと、憶測で誰がやったなどと軽々しく言わないことを話しました。

放課後、アンケート内容の紹介と意見交流を行い、全校で今後の生活について考えました。

アンケートの感想には、生徒全員が自分ごととして捉え、二度とこのようなことが起きないためにはどうしたらよいかを真剣に書いていました。このことは大変嬉しくも頼もしく感じました。中には、書いた人だけの責任にするのではなく「生徒会全体の活動が不十分だから書かせてしまった」と考える生徒もいました。

今回の件については、生徒だけの問題として捉えるのではなく、校長としての学校経営に問題はなかったか、改めて振り返るとともに、為すべきことは何かを今一度考えたいと思います。

次期生徒会役員を決める立会演説会では、立候補者の多くが「明るい笑顔」の学校を築くことを目標に掲げていました。これは生徒みんなの願いだと思います。今、改めてこれまでの活動の意義を問い直し、新たな目標に向かっていくことが必要なのかもしれませんが。

私たち教職員も、生徒と共に考えながら「安全安心な学校」「明るい笑顔の輝く学校」を築いて行く所存ですので、今後もお力添えをお願いいたします。